

『香魚鮎と岐阜の3大河川』

鮎は、香魚または年魚ともいい、香気が高く、川魚の王といわれる。名高いのは、長良川の鵜飼いで獲れる鮎です。一番大きく肥えていて香気の最も高いのが、揖斐川の鮎、次が長良川の鮎で、木曾川の鮎が最も劣る。鮎は孵化後、一旦は海に下り、海ではプランクトンを食して成長し、若鮎となって川に上り来る頃には、水面近くを飛ぶ昆虫を食べてぐんぐん成長し、上れるだけ谷川に上って、長さ10センチ位となつてからは、盛んに水中の小石に附いている珪藻を食べて、生育を遂げるのです。それで、川に珪藻の繁殖が盛んであれば、鮎は思う存分な成長を遂げて肥大し、味も香気も良くなるわけです。



◎揖斐川について

揖斐川は岐阜県揖斐川町の冠山（標高1,257m）に源を発し深い山間溪谷を流下し、揖斐川町で濃尾平野に出ます。揖斐川は、濃飛高原西部の粘板岩の多い古生層及び、中生層の山の中を流れており、河底の石には、粘板岩の砕けた細土分が附着し、その石面は珪藻の繁殖するのに好条件を提供しています。この川の鮎が美味なのは、このためであって、初秋の頃、上流で築で獲れる鮎は頭は小さく、腹は太く、長さ往々40センチに達します。

揖斐川の特徴は、流水ばかりではなく伏流水や湧水としての「陸水」の量も顕著に多い土地柄を、形成しています。国の天然記念物であるイタセンパラやネコギギなどが生息し、また、元来北方系の魚であるハリヨ（県指定）も生息しているのは、この地域も豊かな湧水があるからにほかなりません。

○長良川について

長良川は岐阜県郡上市にある大日ヶ丘を源に、上流は花崗岩や火山岩の中を流れ、中流と支流は古生層及び中生層の水成岩の中を流れ、伊勢湾まで流れる一級河川です。ダムがない長良川は、ミネラルなど栄養豊富な水が下流までノンストップで流れます。長良川の源には、ブナなどの原生林が残っています。また、冬には多くの積雪があります。雪解け水は、豊かな土壌である山を流れ川となります。ブナの原生林、雪解け水。この美味しそうな水が、長良川の豊かな生き物を育てているのです。

△木曾川について

木曾川の本流は、源を木曾山中の花崗岩地に發し、主として花崗岩及び石英斑岩の中に流れて、平野に出て来るが、支流の飛騨川もまた概ね、石英斑岩の中を流れています。それゆえ砂は概ね石英質で、珪藻着生に適しません。そのためか、この川の鱒は美味を以て聞いているが、鮎は香気が乏しくて、味も佳くありません。